

多様な力を結集して世界の課題解決へ

開発途上国の
課題に取り組む
20の事業戦略

JICA

グローバル・アジェンダ

JICA GLOBAL AGENDA



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



独立行政法人国際協力機構 (JICA) は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

「人間の安全保障」の実現を目指して

近年、世界の地政学的競争が激化し、法の支配に基づく国際秩序や協調は重大な挑戦にさらされ、国際社会の分断のリスクが深刻化しています。気候変動による水害や干ばつなどの自然災害の強度・頻度の高まり、感染症の流行、食料やエネルギー価格の高騰、経済成長の減速と国内外の経済格差拡大などが同時並行的に発生し、相互に影響し合い、複雑化しています。

例えば、2050年には、低地沿岸地域に住む10億人以上の人々が、海面上昇による気候変動リスクにさらされると予測され



2050年までに、

10億人以上の人々が
海面上昇による気候変動リスクにさらされる

ています。世界には、安全な飲料水を手に入れない人が、2024年時点で21億人もいます。不衛生な飲料水が原因で、乳幼児を中心に年間50万人以上が命を落しています。

この複合的危機は、全人類への脅威ですが、特に開発途上国の貧困層など脆弱な立場に置かれた人々により深刻な影響をもたらしています。このような地球規模の脅威から、人々を保護し、その可能性を最大限に引き出すことで、一人ひとりの命、暮らし、尊厳を守ること、すなわち「人間の安全保障」の実現が強く求められています。



2024年時点で、

21億人
安全な飲料水を
入手できない

複雑化する課題に挑む「JICAグローバル・アジェンダ」

JICAは、人間の安全保障の実現やSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する為、開発課題ごとに達成を目指す目標と、具体的なアプローチを明確にした事業戦略「JICAグローバル・アジェンダ」を策定しています。SDGsが掲げる5つの「P」を踏まえ、People（人々）、Planet（地球）、Prosperity（豊かさ）、Peace（平和）に沿って20の課題別に事業戦略を策定するとともに、多様なPartnership（パートナーシップ）を追求することで開発インパクトの拡大を図ります。

JICAグローバル・アジェンダの中でも、特にJICAが豊富な経験を有する課題や新たに挑戦する課題など、重点的に取り組む事業を集結させ「クラスター事業戦略」を設定し、開発インパクトの発現に向けた取り組みを強化しています。

各戦略においては、解決すべき開発課題を特定し、達成を目指す目標と指標、そして課題のある状態から目指す社会の状態に至るまでのプロセスを開発シナリオとして示しています。これらの目標やシナリオに基づき、技術協力、資金協力を含むさまざまなJICA事業を、戦略的に効果的に組み合わせ取り組みます。

また、複雑化する課題や新しい課題に対応するため、ニーズや時代に合わせて事業や解決策を絶えず見直し「革新」していきます。こうした協力を通じて得られた知見や経験、解決策を日本社会の課題解決にも還元し、さらには社会課題の解決策を日本と相手国が双方向で循環して生かす「環流」へつなげます。



JICA
グローバル・
アジェンダ

中・長期的な成果・目標を設定し、事業のまとまりで目標達成を目指す課題別事業戦略

クラスター事業
戦略

各JICAグローバル・アジェンダの中で、特に重点的に取り組む事業群

20のJICAグローバル・アジェンダ

1 Prosperity 豊かさ

途上国において経済成長の基礎や原動力となる質の高いインフラ整備や安定的なエネルギー供給、産業の育成や農民の生計向上などを支援。持続可能かつ強靱で豊かな社会を実現します。



- 1 都市・地域開発
- 2 運輸交通
- 3 資源・エネルギー
- 4 民間セクター開発
- 5 農業・農村開発 (持続可能な食料システム)

3 Peace 平和

自由、民主主義、基本的人権の尊重、法の支配といった普遍的価値を共有し、安定・安全が確保された平和で公正な社会を実現します。ジェンダー平等を推進し、デジタル技術を課題解決に活かします。



- 11 平和構築
- 12 ガバナンス
- 13 公共財政・金融システム
- 14 ジェンダー平等と女性のエンパワメント
- 15 デジタル化の促進

2 People 人々

すべての人々に、安定的な保健医療サービスや感染症対策、栄養の改善、質の高い教育などを届けるための支援。子ども、障害者等の脆弱者な人々を含む、誰ひとり取り残さない社会を実現します。



- 6 保健医療
- 7 栄養の改善
- 8 教育
- 9 社会保障・障害と開発
- 10 スポーツと開発

4 Planet 地球

国際社会が一丸となって取り組む必要がある気候変動や環境問題等の地球規模の課題に対応し、深刻な影響が懸念される途上国において、持続可能かつ強靱な社会を実現します。



- 16 気候変動
- 17 自然環境保全
- 18 環境管理
- 19 持続可能な水資源の確保と水供給
- 20 防災・復興を通じた災害リスクの削減

多様なパートナーと協働・共創し、開発インパクトを最大化

JICAはJICAグローバル・アジェンダで掲げる目標の実現を目指し、民間企業、地方自治体、研究機関、市民団体などを含む日本国内外のパートナーとの「共創」の拡大を図ります。具体的には、開発課題の解決のための知識やアイデア、人材などさまざまなリソースを結集し、共に課題解決に取り組むプラットフォームの構築と活動を推進します

(Platform)。パートナーと共に目指す開発アジェンダの設定をリードし (Agenda Setting)、民間企業によるビジネスを通じた課題解決を促進する環境整備や市場の創出を図ると共に (Market Creation)、資金動員に繋げていきます (Finance Mobilization)。

Agenda Setting

未来に向けて
ともに達成すべき目的・目標を設定します

事例 アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD)

アフリカのコム生産量を10年間で倍増 (2008年：1,400万トン、18年：2,800万トン) する目標を掲げ、JICAと国際NGO「アフリカ緑の革命のための同盟 (AGRA)」が共同で立ち上げた国際イニシアティブ。JICAを含むさまざまな機関が計90億ドルの支援を実施し倍増を達成。19年にさらなる倍増 (30年：5,600万トン) を掲げて取り組んでおり、現在計22の機関がCARD運営委員会メンバー。

Platform

多様なヒトや情報が集まり
共創する場をつくります

事例 サステナブル・カカオ・プラットフォーム

開発途上国において社会的・経済的・環境的に持続可能なカカオ産業の実現を目指し、多様な関係者が、カカオ産業の抱える課題の解決に向けて共創・協働するための「場」を提供。このプラットフォームには、業界団体、製菓企業、商社、コンサルティング会社、NGOなどの多くのステークホルダーが参加し、連携を強化。多様なイベントやセミナー等の機会で広く情報共有や発信を行っている他、児童労働撤廃等の特定のテーマに応じた分科会を通じて具体的な行動目標を策定し、取り組みを促進している。

JICAの事業

Market Creation

ビジネスの機会を創出します

事例 ブータンの保健データ基盤整備

ブータンにおいて、近年増加傾向にある非感染疾患の予防等の健康課題の解決や、肥大化する医療費の削減に向けて、保健データの統合的管理とデータ活用を促す基盤整備を支援。実運用に向けて、日本企業の製品であるウェアラブルデバイスの活用を含む複数の要素を組み合わせて検証中。今後、政府が実施する全国規模の健診とも連携し、同デバイスが広く活用され、保健データ基盤の連結・整備につながることを期待される。

Finance Mobilization

課題解決のために資金を動員します

事例 東ティモールの森林保全

農地拡大のための森林伐採や過放牧により森林破壊が進む地域で、燃料や食料など森林資源に生計を依存する住民 (約48,000人) を対象に、持続可能で環境負荷の低い農業やアグロフォレストリー (樹木を植栽し樹間で家畜・農作物を飼育・栽培) による生計向上、および温室効果ガス排出量削減に貢献する事業 (約17億円) を提案。2021年、「緑の気候基金」(GCF) の連携事業に承認された。



独立行政法人
国際協力機構

〒102-8012
東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
TEL: 03-5226-6660~6663 (代表)
Eメール: jicagp@jica.go.jp

独立行政法人国際協力機構 (JICA/ジャイカ^(注)) は、日本の政府開発援助のうち、二国間援助の実施を一元的に担う国際協力機関です。世界の約150か国・地域へ協力しています (注) JICA/ジャイカはJapan International Cooperation Agencyの略称です。

詳細はこちらのページをご覧ください www.jica.go.jp/activities

photos (P3): JICA(Prosperity), Jiro Nakahara/JICA (People), FatCamera/iStock(Peace), Kenjiro Imamura/JICA(Planet)

